

総合開館 20 周年記念

## 「アピチャップン・ウィーラセタクン 亡霊たち」展

Apichatpong Weerasethakul: Ghosts in the Darkness

2016 年 12 月 13 日 (火) ~ 2017 年 1 月 29 日 (日)



このたび、東京都写真美術館は、総合開館 20 周年を記念して、タイ出身の映像作家・映画監督である、アピチャップン・ウィーラセタクンの個展を開催します。

アピチャップンは、タイの東北地方を舞台に、伝説や民話、個人的な森の記憶や夢などの題材から、静謐かつ叙情的な映像作品を制作し続けてきました。アピチャップンの作品は、写真やフィルム、ビデオ、インスタレーション、長編映画など多岐にわたる方法で、淡々とした日常のなかから人間の深淵を浮かび上がらせていく一方で、タイの現代社会に関わる移民や格差、政治などの社会問題にも密接に関わっています。本展覧会では、目に見えない亡霊 = Ghost をキーワードに、これまで直接的に言及されることが少なかった社会的、政治的側面にも焦点をあてながら、アピチャップンの映像世界を当館の映像コレクション作品と作家蔵作品から紹介します。



《悲しげな蒸気》2014年 ライトボックス、昇華型熱転写方式



《花火（アーカイヴス）》2014年 シングルチャンネル・ビデオ・インストール  
HD デジタル、カラー、ドルビーデジタル 5.1、6分40秒

ぼくは朝、目を覚ましていそいそと夢を書きとめる。  
夜のあいだ自分はいったい誰だったのか、突き止めてみたいのだ。

アピチャップン・ウィーラセタクン

## 作家紹介



### アピチャッポン・ウィーラセタクン

1970年タイ・バンコクに生まれ、タイ東北部イサーン地方、コーンケンで育つ。コーンケン大学で建築を学んだ後、シカゴ美術館附属シカゴ美術学校で映画制作修士を取得。1993年に短編映画、ショート・ビデオの制作を開始し、2000年に初の長編映画を制作。1999年に「キック・ザ・マシーン・フィルム (Kick the Machine Films)」を設立。既存の映画システムに属さず、実験的でインディペンデントな映画制作を行っている。長編映画『ブンミおじさんの森』で2010年カンヌ国際映画祭最高賞（パルムドール）受賞。映画監督として活躍する一方、1998年以降、現代美術作家として映像インスタレーションを中心に旺盛な活動を行っている。2009年の大規模な映像インスタレーション「プリミティブ」は、ドイツ・ミュンヘンのハウス・デア・クンストにはじまり、数多くの美術館を巡回。

2012年にチャイシリと協働でドクメンタ13に出展、2013年に参加したシャルジャ・ビエンナーレではチャイシリとの協働作品が金賞を受賞。同年に福岡アジア文化賞を受賞している。2015年は初のパフォーマンス作品《Fever Room》を韓国・光州のアジアン・アート・シアターで発表し、各都市で公演が続いている。2016年にチェンマイに開館したMIIAM現代美術館で、タイ初となる大規模個展を開催した。チェンマイ在住。

## アピチャップンを知るためのキーワード

### 亡霊 Ghosts

本展のタイトル「亡霊たち(Ghosts in the Darkness)」は、2009年に発表した自身の論考タイトルに由来します。本展のキーワード、目に見えない亡霊=Ghostには二つの意味が潜んでいます。ひとつは写真や映像などのメディアを媒介することで作用する、映像自体が持つ特性です。もうひとつは、現実社会で作用する目には見えない力、すなわち政治や歴史の中に潜むモンスターのような見えざる力のことです。

本展を“メディアの亡霊”と“政治の亡霊”の二つを組み合わせることで、アピチャップンの深淵なる映像世界を理解する鍵となることでしょう。

### 記憶 Memories

アピチャップンの近作には、夢や眠りとともに「記憶」にまつわるエピソードがしばしば登場し、近年のテーマとなっています。

「本展の作品には、初期作品から最新作にいたるまで、恋人や愛犬、両親、友人たちなど自分自身を取り巻く個人的なつながりが映し出されています。そこに特別な主題はないのですが、すべては自分の記憶なのです。それらは目に見えなかったり、見えたりする幽霊みたいなもので、決して形のあるものではなく常に変化しています」と、アピチャップンが語るように彼の作品の中で、記憶と物語が深く結びついているのです。

### イサーン Isan

アピチャップンが育ったイサーンとは、タイ東北部の総称です。メコン川を挟み、ラオス、南側にカンボジアにまたがるイサーン地方は、地理的にも歴史的にも、ラオスとカンボジアの文化の影響を受け、イサーン住民の多くは、タイ公用語とは異なるイサーン語を母語とし、タイ中央部とは異なる独自の文化を持っています。イサーンの人口はタイ王国総人口の約三分の一を占めるにもかかわらず、タイで最も貧困な地域とされ、中央部のタイ人によって、いまだに差別があります。

アピチャップンは、故郷イサーンをあらためて理解するために、調査し、作品をつくりだすことで、その歴史を振り返ろうとしています。

## 出品作品より

本展は当館のコレクションを中心に、本邦初公開作品を含む 23 点とアーカイヴ作品で構成します。また、1 階ホールにて「アピチャップン本人が選ぶ短編集」(全 25 作品 4 プログラム)を上映します。

### 本邦初公開作品

《ビデオ・ダイアリー：ハイク》2009 年、《故宮 (ピピッタバン・ティ 台北)》2008 年、《サクダ (ルソー)》2012 年、  
《ビデオ・ダイアリー：炎の庭》2016 年、《速度》2016 年



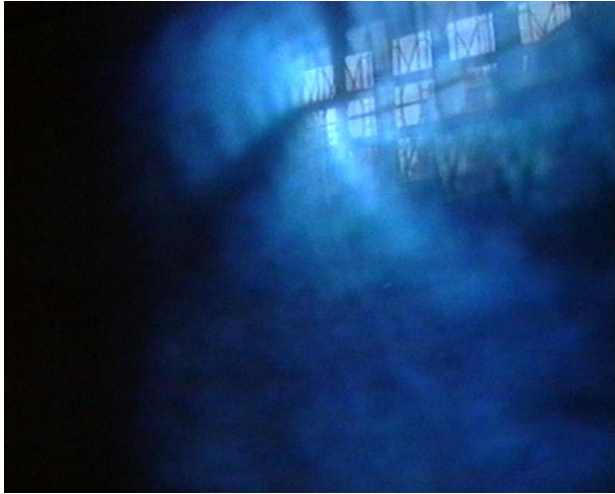
35 ミリフィルムを手動で回す映画用カメラで撮影された素材も使い、アピチャップンの日常、仲間、恋人や、愛犬らとの親密さのなかに失われてしまった記憶、タイ社会の暗部への眼差しも描かれている。

上、下ともに  
《灰》2012 年  
シングルチャンネル・ビデオ  
HD デジタル、カラー、ステレオ  
21 分 48 秒  
東京都写真美術館蔵



「プリミティブ」プロジェクト以降、火は、生命と死、現在と未来を循環するモチーフとして作品のなかに多く登場してきている。

《炎》2009 年  
インクジェット・プリント  
東京都写真美術館蔵



初のビデオ作品。一見薄暗い部屋に、窓から差し込む陽射しが、フッリカー現象のように明滅して、動いていく様子が映し出されている。故郷コーンケンの両親が経営する病院をビデオ・カメラで記録しようとしたアピチャップンは、肉眼では見えない窓からの光が、テレビ画面に反射して不思議なエフェクトになって、映し出されていることを発見し、即興的に身体を動かしながら病室を撮影したという。

《窓》1999年

シングルチャンネル・ビデオ

SD デジタル、カラー、サイレント

11分56秒 東京都写真美術館蔵



アピチャップンの両親はタイ東北部イサーン地方のコーンケンで医者をしていたが、その診療所は父親ともども作品の題材となることが多い。

《父の診療所》2016年

発色現像方式印画



初期の実験映画。シカゴ美術学校で映画制作の修士課程時代に制作された。コーンケンに住む愛する母に国際電話をかけ、その会話を録音している。母の子供の頃の写真にシカゴでアピチャップンが住むアパート周辺の映像をコラージュすることで、自身と家族、愛犬との強い絆を表現した。

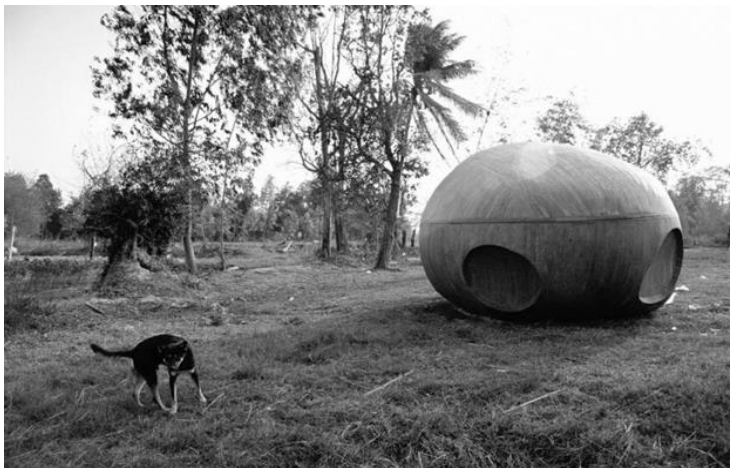
《0116643225059》1994年

シングルチャンネル・ビデオ

SD デジタル、白黒サイレント

5分19秒

(オリジナルは16ミリフィルム、モノラル・サウンド)



《ナブア森のティーン、2008年》2013年

発色現像方式印画

東京都写真美術館蔵

《ナブア森の犬と宇宙船、2008年》2013年

発色現像方式印画

東京都写真美術館蔵

## 「プリミティブ」プロジェクト

2009年に発表された大規模な映像インスタレーションに加え、短編映画、アート本、長編映画で構成された「プリミティブ」プロジェクトは故郷であるタイ東北地方の歴史を意識的に取り上げはじめる転換点となりました。アピチャップンは「歴史を知れば知るほど、怒りが大きくなっていった」と述べていますが、このプロジェクトでは、自らが育ったタイ東北部に対する理不尽な歴史への憤りから、歴史とは無縁の若者たちの“生”に光を当てようとしています。

「プリミティブ」プロジェクトでアピチャップンが調査したナブア村は1960年代から1980年代初頭にかけて、共産主義の勢力拡大を恐れたタイ国軍が統治した村で、農民と激しい戦闘が繰り広げられました。当時、男性の多くは森の中へ逃げ、女性や子供たちだけが村に残されました。そのため、男性を誘惑して、あの世へ連れ去ってゆく「未亡人の幽霊」という伝説が残っています。

# 上映「アピチャップン本人が選ぶ短編集」

展覧会開催期間中、作家本人が選んだ自身の短編作品を1階ホールにて上映します。

本邦初上映作品(★)を含む、本展の為だけの特別プログラムをお楽しみください。

12月18日(日)の上映前にアピチャップン・ウィーラセタクン監督の挨拶があります。

(上映はすべて、タイ語・英語/英語・日本語字幕付)

期間：2016年12月13日(火)ー2017年1月5日(木)

上映時間：19:00(開場18:45) ただし、2017年1月2日(月・振休)、1月3日(火)は13:00から上映。

当日券(1プログラムにつき)一般1,500円/学生1,200円/中高生1,000円/65歳以上1,000円

障がい者手帳をお持ちの方とその介護者1,000円/リピーター割1,000円(本プログラム当日券または「アピチャップン・ウィーラセタクン 亡霊たち」展のチケット提示)

## 上映作品(プログラム構成:アピチャップン・ウィーラセタクン)

### A (93分)



《国歌 The Anthem》2006/5'12"



《Trailer for Cindi》2011/1'21" ★



《0116643225059》1994/5'19"



《蒸気 Vapour》2015/21' ★



《幽霊の出る家 Haunted Houses》2001/60'/\*

### B (90分)



《国歌 The Anthem》2006/5'12"



《La Punta》2013/1'33" ★



《M Hotel》2011/11'50"



《エメラルド Emerald》2007/11'/\*



《Mobile Men》2008/3'15'/\*



《Cactus River》2012/10'09"



《Footprints》2014/5'50" ★



《Worldly Desires》2005/42'32'/\*

### C (90分)



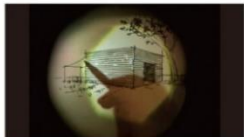
《国歌 The Anthem》2006/5'12"



《第三世界 thirdworld》1997/16'38'/\*



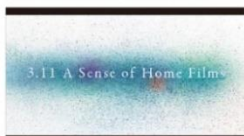
《Empire》2010/2'



《My Mother's Garden》2007/6'42"



《Ghost of Asia》2005/9'11'/\* ★



《Monsoon》2011/3'11"



《輝かしく人々 Luminous People》2007/15'/\*



《Nimit》2007/15'57'/\* ★



《プンミおじさんへの手紙 A Letter to Uncle Boonmee》2009/17'40'/\*



《ヴァンパイア Vampire》2008/19'/\*

### D (91分)



《国歌 The Anthem》2006/5'12"



《この光、より多くの光 This And Million More Lights》2003/1'



《マレーと少年 Malee and the Boy》1999/26'45'/\*



《Nokia Short (collaboration with Masato Hatanaka)》2003/2'



《メコンホテル Mekong Hotel》2012/56'13'/\*

上映スケジュール 開場18:45 上映19:00 ただし、2017年1月2日[月・祝]、3日[火]のみ、13:00からの上映となります。

12/13	12/14	12/15	12/16	12/17	12/18	12/19	12/20	12/21	12/22	12/23	12/24	12/25	12/26	12/27	12/28	12/29~	1/2	1/3	1/4	1/5
火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金・祝	土	日	月	火	水	2017/1/1	月・祝	火	水	木
A	B	C	D	A	B ***	休映	C	D	A	B	C	D	休映	A	B	休映	C	D	A	B



## 関連イベント

### シンポジウム「映像の不可視性をめぐって」

2016年12月18日(日) 15:00~17:30 英日通訳付

本展の重要なキーワードである、目に見えない亡霊=Ghost から、アピチャップン作品の背景にある歴史や政治、同時に映像本来にそなわっている「不可視性」という問題をテーマに、アジアへの造詣が深い識者との対話を通じてさまざまな立場から考察するシンポジウムです。

出演：アピチャップン・ウィーラセタクン（出品作家）、四方田犬彦（映画研究者）、富田克也（映画監督）、相澤虎之助（映画監督/脚本家）

会場：東京都写真美術館 1階ホール

定員：190名（整理番号順入場/自由席/当日10時より1階ホール受付にて入場整理券を配布します）

### ギャラリートーク

会期中の第2・第4金曜日 16:00 および2017年1月3日(火) 16:00 より、担当学芸員による展示解説を行います。展覧会チケット（当日消印）をご持参のうえ、3階展示室入口にお集まりください。

事業はやむを得ない事情で変更することがございますのでご注意ください。また、イベントのご取材をご希望される方はお早めに広報担当までご連絡ください。

### 展覧会カタログ

『アピチャップン・ウィーラセタクン 亡霊たち』 定価本体：2,400円（税別）

全出展作品、作家略歴、出品リスト、作家本人の書き下ろし原稿およびインタビューを掲載しています。

寄稿＝四方田犬彦（映画研究者）、佐々木敦（批評家）、リクリット・ティラヴァーニャ（アーティスト）、コーン・リッディー（映画批評家）、田坂博子（東京都写真美術館・学芸員）

B5、200頁、東京都写真美術館編 河出書房新社発行

## 開催概要

総合開館 20 周年記念 アピチャッポン・ウィーラセタクン 亡霊たち

Apichatpong Weerasethakul: Ghosts in the Darkness

会場	東京都写真美術館 地下1階展示室
会期	2016年12月13日(火)～2017年1月29日(日)
開館時間	10:00～18:00(木・金は20:00まで) ただし、2017年1月2日(月・振休)・3日(火)は11:00～18:00 入館は閉館30分前まで
休館日	毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は開館し、翌平日が休館。ただし1月3日は開館) 年末年始(2016年12月29日～2017年1月1日)
観覧料	一般 600(480)円／学生 500(400)円／中高生・65歳以上 400(320)円 ※( )は20名以上の団体料金 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料
主催	東京都 東京都写真美術館／産経新聞社
助成	公益信託タカシマヤ文化基金
協賛	株式会社資生堂、Angie Naoko
後援	タイ王国大使館

## このリリースのお問い合わせ先

このリリースに掲載されている図版をデータにてご用意しております。

掲載をご希望の際は、下記広報担当までご連絡ください。

掲載点数が1点の場合は、展覧会メインイメージとして、本リリース1ページ目にあります、

《ゴースト・ティーン》2009年 インクジェット・プリントのご掲載を薦めさせていただきます。

図版をご掲載の際は、必ず作品キャプションおよびクレジットの表記をお願いします。

図版のトリミング、文字かぶせ等の加工はご遠慮ください。

展覧会担当 田坂博子 h.tasaka@topmuseum.jp 岡村恵子 k.okamura@topmuseum.jp  
遠藤みゆき m.endo@topmuseum.jp

広報担当 久代明子 平澤綾乃 前原貴子 press-info@topmuseum.jp

Tel 03-3280-0034／Fax 03-3280-0033 <http://topmuseum.jp>

〒153-006 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 東京都写真美術館